

3月25日  
弟子屈をPRするCDを自主製作  
大橋さんが摩周湖を題材に作詞を手掛ける



大橋秀雄さん(82歳・高栄2)が、冬の摩周湖を題材にした曲「摩周湖の樹氷(はな)」のCDを自主製作しました。

大橋さんがCDを自主製作するのは、2013年8月の「釧路川」に続き2作目。弟子屈をPRしたいと手がけているもので、前回に引き続き今回も大橋さんが作詞を担当しています。ジャケットの写真も大橋さんが撮影したもので、歌詞同様、樹氷に包まれた摩周湖の写真となっています。

発売を前に3月25日、役場を訪れた大橋さんは「摩周湖といえば夏や霧が有名だが、冬も素晴らしい。前作と合わせて、弟子屈のまちおこしになれば」と話していました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにつけてあげます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913(課直通)

3月30日  
姉妹都市から2頭目  
鹿児島県日置市から優良和牛を導入



本町の姉妹都市・鹿児島県日置市から2頭目となる優良肉牛が導入され、3月30日に仁多の吉田牧場で引き渡し式が行われました。

式には、弟子屈町肉牛振興会(芝田靖明会長)や摩周湖農業協同組合など関係者20人が出席。本町肉牛のブランド化と生産振興を祈念しました。

今回導入されたのは、2014年度鹿児島県畜産共進会で最優秀3席を獲得した雌牛「みよ14」で、摩周湖農業協同組合と町が共同購入したもの。肥育後、採卵した受精卵を肉牛振興会会員が飼育する雌牛へ移植し、増頭していきます。芝田会長は「環境が違うが適応能力も高い。今後も優良血統の肉牛の繁殖強化を目指していきたい」と話していました。

3月28日  
ネイチャーガイドが北米や釧路の川の魅力語  
てしかが国際交流会主催の講演会



スライドを使って説明する竹岸さん

てしかが国際交流会(池上清子会長)主催の講演会が3月28日、川湯ふるさと館で開催されました。

同会が2011年から行う国際交流イベント「もっと外国を知ろう」プログラムの一環で、今回で16回目。約50人が参加しました。今回は、川湯駅前在住のネイチャーガイド・竹岸さんが、かつて5年間暮らしたカナダのユーコン準州での経験や思い出を中心に話しました。参加者の皆さんは、同州を流れるユーコン川や現地で見られるというオーロラなどに思いをはせたようでした。

4月19日  
火の用心お願いします  
消防関係者が防火徒歩パレード



拍子木を手に元気に呼び掛け

町内消防関係団体による防火徒歩パレードが4月19日、JR摩周駅前から役場

までの区間で行われました。

4月20日~30日の「全道春の火災予防運動」の一環として毎年行われています。今年は、弟子屈消防署や弟子屈消防団、防火管理協議会、消防後援会、女性防火クラブ、摩周丘幼稚園幼年消防クラブの皆さん約100人が参加。沿道の皆さんに風船などを手渡ししながら「火の用心」を呼び掛けました。

4月8日  
地域の役に立ちたい  
郵便局と災害時協力に関する協定を再締結



協定書を手を

町と弟子屈、屈斜路、美留和、川湯の各郵便局は4月8日、災害発生時における協力に関する協定を再締結しました。

1998年に最初の協定を締結し、2008年に内容を見直しています。4年前の東日本大震災時、避難した住民の避難先を郵便局が総力を挙げて掌握。迅速・的確に郵便物を配達したほか、配達中に知った道路状況などの情報提供も行いました。今回、郵便局が自治体に協力できる事項を本協定に明記しようと郵便局側から申し出があり、再締結となったもの。弟子屈郵便局の藤原将男局長は「郵便局のネットワークを最大限に活用して協力したい」と話しています。

快適な施設で安心な老後

新しい老人ホームの内覧会を開催



木材をたくさん使った明るいエントランス



温かい雰囲気の特別養護老人ホーム摩周の食堂

摩周厚生病院隣接地で移転改築が進められてきた養護老人ホーム摩周と特別養護老人ホーム摩周が完成し、4月4・5の両日、町民の皆さんを対象に内覧会が開催されました。内覧会には約900人が訪れ、新しい施設を見学していました。新施設は鉄筋コンクリート2階建て。俣和園が70床、摩周は100床とシヨートステイ10床で、全て個室となっています。内装には道産木材を多く使用。隣接する摩周厚生病院とは棟続きとなっていて、同病院との間に「地域交流ホールてしかが」を設置。入居者と町民の皆さんの触れ合いの場として、また災害時には避難所としても利用されます。18日には、専門業者に加え役場職員や町議会議員の皆さんの協力のもと、全入居者が新施設へ移転。安心して快適な生活を始めています。

町の話題



町の話題

住民が主体の地域づくり

南弟子屈地域活性化協議会の設立総会



総会後には山田桂一郎アドバイザーによる基調講演も

重則会長が「住民が主体となって、地域の将来像を考えていきたい」とあいさつ。小澤会長が協議会の会長に選任されました。また、本町のまちづくりアドバイザーを務める山田桂一郎氏が同協議会のアドバイザーに就任したほか、5月採用予定の地域おこし協力隊員も同協議会に参加します。同協議会では今後、地域のビジョンを明らかにし、地域活性化策を策定するなどの活動を行っていきます。

南弟子屈地域活性化協議会の設立総会が4月16日、旧昭栄小学校で開催されました。地域のコミュニティと活力の核を担ってきた同校が3月末で閉校したことを受け、同校を拠点に南弟子屈の地域づくりを住民の皆さんの手で行おうと設立されたものです。総会には約20人が出席し、規約や今年度の事業計画、役員選出などを承認しました。



総会で今後の事業計画などを確認